

この本の考え方

本書は、アカデミックな日本語を学ぶための教科書です。本書では、日本語を通して考えを深めていきたいテーマとして Action for Community Engagement を選びました。Action for Community Engagement とは、社会や地域に関わり、共に生きる社会をつくるために、そこにある課題を周りの人と共に考え、行動することです。教室の中で日本語を学ぶことに完結せず、身近なコミュニティと関わりながら社会の課題について学びを深め、自分はどうか行動していくか考えていく必要があります。

近年、国や地域を越えて移動する人々がますます増加しており、多文化共生は重要な社会の課題になっています。もとのコミュニティを出て国や地域を越えて移動する背景には、教育や就労など、よりよい生活機会を求めたものから、戦争や紛争、貧困、格差、差別、気候変動などによるものまであります。現在、世界は決して平和とは言えません。その世界を多くの人がさまざまな理由で移動しています。日本では、外国人を受け入れる側としての議論が多く見られますが、歴史的には日本からも多くの人々が移民として海外へ渡り、それぞれの地で生活を築いてきました。現在も多くの人々が日本から国外に移動して生活しています。周りを見渡すとそのような移動の経験がある人々との接点があるはずは必ずあるはずです。

移動の経験がある人々（移民・難民）について学ぶことは、遠い世界の出来事に見える問題を、自分たちの日常生活と結びつけて考えるきっかけになります。移民・難民についての議論には、多様な意見と立場が存在します。本書では、ひとつの見方に偏らず、異なる視点を持つ複数の読み物（移民・難民当事者や支援者の語り、移民・難民問題に対する取り組みに関する記事など）を取り上げました。共に生きる社会の一員として移民・難民当事者や支援者を捉え、彼らが何を考え、どう生き、行動してきたのかを知ることができると思います。すぐに正解が出ないテーマだからこそ、「自分には関係がない」と無関心になりがちですが、他者との対話を通じて多様な観点から考えを深めていくことが重要です。この社会にどう関わっていくのかを「自分ごと」として考え、行動するためのことばを身につけていきましょう。

CLIL 日本語教育シリーズは、日本語教育を通して世界の平和について学ぶことの大切さを示した
縫部義憲先生（広島大学名誉教授）の「PEACE」というコンセプトがもとになっています。縫部先生は平和な世界を実現するために、「PEACE」の頭文字をとって以下のような5つの課題を考えていく必要があると提案しました。

本書は、その5つの課題のうち「自立のための支援（Assistance in need）」と深く関わっています。社会の変化とともに、移動の経験がある人々（移民・難民）は支援される側というだけでなく、地域社会を共につくっていく主体でもあるという視点が重要になってきています。そこで、本書では「共に生きる社会のために（Action for Community Engagement）」というテーマのもと、移民・難民やその支援について知識として理解するだけでなく、実際に人やコミュニティとつながり、対等な立場で対話や協働を重ねながら関わり行動していくことが重要であると考え、PEACEの概念をアップデートすることにしました。

P : Poverty（貧困からの脱却）

E : Education（すべての人に教育を）

A : Assistance in need（自立のための支援）

→ Action for Community Engagement（共に生きる社会のために）

C : Cooperation & Communication（協働と対話）

E : Ecology & Environment（生命と地球環境の保全）

「共に生きる社会のために」というテーマをより深く理解するために、本書では、日本語だけでなく、みなさんの第一言語や英語、そのほかの使える言語も重要な学習資源として捉えています。必要に応じて多言語の資料、デジタルツール、AIを活用しながら学ぶことも効果的だと考えています。



また、本書は、CLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）という教育アプローチに基づいています。CLIL は、あるテーマや内容について学ぶことを通して、日本語を勉強する方法です。具体的には、以下の4つのCを意識して学んでいきます。

	内容 Content	世界で起こっているさまざまな問題を理解する
	言語 Communication	日本語で互いに伝え合う、学習スキルを高める
	思考 しごう Cognition	内容や言語の学習について考える
	協学・異文化理解 きょうがく いぶん か Community/Culture	地球市民の一員として、仲間と協調する きょうちゅう

日本語を実際に使いながらアカデミックな学習スキルや深く考える力を伸ばし、仲間との協働や異文化理解を通してテーマへの理解も深めていきます。本書での学びが、日本語力の向上にとどまらず、世界の課題を「自分ごと」として考え、多様な視点から対話し、実際の行動へとつながっていくことを願っています。